1 Chudnovsky (チャドノフスキー)の公式

$$\frac{1}{\pi} = \frac{12}{\sqrt{C^3}} \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n (6n)! (A+Bn)}{(3n)! (n!)^3 C^{3n}}$$
(1)
(但し、 $A = 13591409, B = 545140134, C = 640320$)

2 Binary Splittling Algorithm(BSA 法)

級数展開の計算量(計算時間)削減のために使用する Binary Splittling Algorithm (BSA 法)について簡単に理解しておく。(但し、ここでは Chudnovsky の公式を使用することに特化している)

まず、次のように定義される級数 S を考える。(n_1, n_2 は正の整数)

$$S(n_1, n_2) = \sum_{n=n_1+1}^{n_2} \left(a_n \prod_{k=n_1+1}^n \frac{p_k}{q_k} \right)$$
 (2)

また、級数 P,Q,T を次のように定義する。 (n_1,n_2) は正の整数)

$$P(n_1, n_2) = \prod_{k=n_1+1}^{n_2} p_k \tag{3}$$

$$Q(n_1, n_2) = \prod_{k=n_1+1}^{n_2} q_k \tag{4}$$

$$T(n_1, n_2) = S(n_1, n_2)Q(n_1, n_2)$$
(5)

すると、級数 P,Q,T は次のように再帰的に評価される。(m は $n_1 < m < n_2$ を満たす正の整数)

$$P(n_1, n_2) = P(n_1, m)P(m, n_2)$$

$$Q(n_1, n_2) = Q(n_1, m)Q(m, n_2)$$

$$T(n_1, n_2) = T(n_1, m)Q(m, n_2) + P(n_1, m)T(m, n_2)$$

アルゴリズムとしては次のようになる。(擬似的な記法)

Func $compPQT(n_1, n_2)$

・
$$n_1 + 1 = n_2$$
 の場合 return $(p_{n_2}, q_{n_2}, a_{n_2} p_{n_2})$

・上記以外の場合

$$m \leftarrow \lfloor (n_1 + n_2)/2 \rfloor$$

$$(P_1, Q_1, T_1) \leftarrow compPQT(n_1, m)$$

$$(P_2, Q_2, T_2) \leftarrow compPQT(m, n_2)$$

$$return(P_1P_2, Q_1Q_2, T_1Q_2 + P_1T_2)$$

End func

3 円周率計算

公式 (1) を変形していくが、まず (1) の (6n)!/(3n)! の部分を変形する。

$$\frac{(6n)!}{(3n)!} = \frac{\prod_{k=1}^{6n} k}{\prod_{k=1}^{3n} k}$$

$$= \frac{\prod_{k=1}^{n} 6k(6k-1)(6k-2)(6k-3)(6k-4)(6k-5)}{\prod_{k=1}^{n} 3k(3k-1)(3k-2)}$$

$$= \prod_{k=1}^{n} 24(6k-1)(2k-1)(6k-5)$$

$$= 24^{n} \prod_{k=1}^{n} (2k-1)(6k-1)(6k-5)$$

ここで、

$$a_k = (-1)^k (A + Bk) \tag{6}$$

$$p_k = (2k-1)(6k-1)(6k-5) \tag{7}$$

$$q_k = k^3 C^3 / 24 (8)$$

とおくと、公式(1)は次のように変形できる。

$$\begin{split} \frac{1}{\pi} &= \frac{12}{\sqrt{C^3}} \sum_{n=0}^{\infty} \frac{a_n \prod_{k=1}^n p_k}{\prod_{k=1}^n q_k} \\ &= \frac{12}{C\sqrt{C}} \sum_{n=0}^{\infty} a_n \frac{\prod_{k=1}^n p_k}{\prod_{k=1}^n q_k} \\ &= \frac{12}{C\sqrt{C}} \left(a_0 + \sum_{n=1}^{\infty} a_n \prod_{k=1}^n \frac{p_k}{q_k} \right) \\ &= \frac{12}{C\sqrt{C}} \left(A + \lim_{N \to \infty} (S(0, N)) \right) \\ \pi &\simeq \frac{C\sqrt{C}}{12} \cdot \frac{1}{A + S(0, N)} \quad (N \text{ は正の整数}) \end{split}$$

ここで、(5) が

$$T(n_1, n_2) = S(n_1, n_2)Q(n_1, n_2)$$

$$= \left\{ \sum_{n=n_1+1}^{n_2} \left(a_n \prod_{k=n_1+1}^n \frac{p_k}{q_k} \right) \right\} \left(\prod_{k=n_1+1}^{n_2} q_k \right)$$

$$= \sum_{n=n_1+1}^{n_2} \left(a_n \prod_{k=n_1+1}^n p_k \prod_{k=n+1}^{n_2} q_k \right)$$

となることから、

$$\pi \simeq \frac{C\sqrt{C}}{12} \cdot \frac{Q(0,N)}{AQ(0,N) + T(0,N)}$$

$$= \frac{640230\sqrt{640320}}{12} \cdot \frac{Q(0,N)}{AQ(0,N) + T(0,N)}$$

$$= 426880\sqrt{10005} \cdot \frac{Q(0,N)}{AQ(0,N) + T(0,N)} \quad (N は正の整数)$$
(9)

あとは、N を適当に設定して Binary Splitting Algorithm で再帰的に P,Q,T を計算し、最後に式 (9) に代入すればよい。

但し、実際に計算機で計算する場合は、乗算で FFT (高速フーリエ変換) 除算・平方根で ニュートン法を使用したり、高速演算用のライブラリを使用したりするなどして高速化を図る。